

## 研修報告 C 班 3 グループ【C3PO –Precious Opportunity-】

### 1. テーマについて

当グループでは、テーマを「学生の自律的学修の支援を通じて社会に適応できる人材の育成を実現しより良い未来に貢献する」とした。

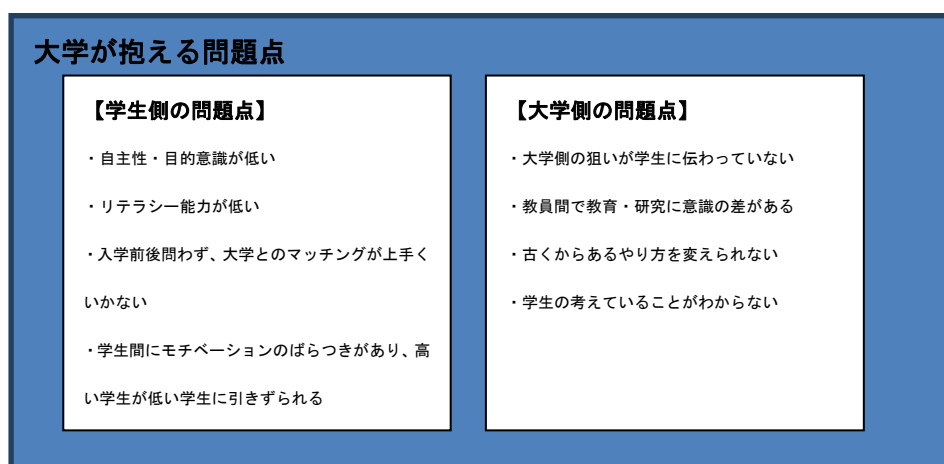
まず、大学の役割は「より良い未来」を形作るために「社会に適応できる人材を育成すること」であると定義した。

しかし、現在の大学においては、「将来なりたいものがわからず、どう勉強をしたらいいかわからない」学生や「大学での学修を社会でどう生かすべきかわからない」学生が多数存在している。つまり、大学の学修と実社会の要求にギャップがある状態であると言える。

流動性の激しい社会においては、自ら考え主体的に行動することが求められる。そのような社会に要求される能力を養成するために、「自律的学習の支援」を行うことこそ大学が今やるべきことであると考えた。

### 2. 現状及び問題点について

現在の大学には、上述の通り「将来なりたいものがわからず、どう勉強をしたらいいかわからない」学生や「大学での学修を社会でどう生かすべきかわからない」学生が多数存在している。こうした状態が発生している原因は下図の通り学生側・大学側の双方に存在するため、これを解消出来るような施策を実施する必要があると考えた。

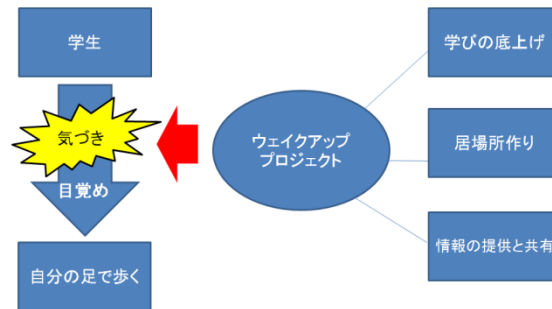


### 3. 解決策について

上記の問題点から、「学生のモチベーション形成・維持・向上」と「自己を客観視できる力の育成」を「自律的学修の支援」の中で実現する必要がある、具体的には「学びの底上げ」・「居場所作り」・「情報の(正確な)提供と共有」を通じて実現できるのではないかと考えた。

これらを具現化する施策を「ウェイクアッププロジェクト」としてまとめ、これを通じて上述の大学の役割を果たしていけるものと考えた。

## <ウェイクアッププロジェクトとは>



受動的に教育を受けている状態を「寝ている」状態とした上で、大学側の仕掛けを通じて気づきを得ていくうちに「Wake up (=能動的)」な状態に学生を導くための施策群。上述の「学びの底上げ」・「居場所作り」・「情報の提供と共有」を三本柱とし、それぞれを具体的な施策で実現する。

「学びの底上げ」は「繰り返し授業」の実施や、「授業と連携したボランティア活動」を通じて実践的な学びの場の提供などによって実現する。

「居場所作り」は「高レベル学生向けの特別講座」や「学生同士で学修補助が出来る仕組み」を設置して、同じ目標を持った仲間が集まる、質のよい学びの環境を形成したり、「学生主体の学内イベント」を設けたりすることで、コミュニケーションのきっかけづくりをする中で実現する。

「情報の提供と共有」はロールモデル提供を徹底することで、授業を通して獲得・応用できる能力を明示したり、一方的な発表になりがちな入試広報を、受験生が求めるものを傾聴することできめ細やかに実施（場合によっては、受験生の求めるものをその大学で満たせないことも正直に開示するなど）したりして大学・学生間の目線を合わせるなどして実現する。

「ウェイクアッププロジェクト」は学生をターゲットとした施策群であるが、これを実行しようとする、大学側が汗をかく機会が格段に増えるはずである。そうした状況下では、今まで通りの業務のあり方は通用しないものと思われるので、このプロジェクトに関わるうちに大学スタッフの意識改革や業務プロセスの洗練も進むと考える。

なお、一連の議論の中で「ICT は目標を達成するための手段に過ぎない」という共通認識を得られたため、当グループでは具体的なシステムによる施策というよりも、施策の方向性やトピックについて時間をかけて議論した。

## 4. 考察

さまざまな地域・規模・特性の大学からメンバーが参加して幅広い意見交換を行ったが、どの大学も抱えている問題点にはさほど違いが無いということが判明した。したがって、現在自大学で抱えている問題はすなわち、日本のアカデミズムが抱えている問題であると換言できるのではないだろうか。アカデミズムの没落が国の衰退に繋がることは自明であるため、現在各々が直面している問題は、より高い視点を持って対処する必要があるのではないかと考えた。

以上